

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
安部 敏樹	あべ としき	一般社団法人リディラバ/株式会社Ridilover	<p>■社会課題・地域課題をテーマとしたスタディツアーを企画しあらたな市場を開拓。 ■被災地での教育旅行をとした復興支援(例:釜石での被災後初の100人規模での教育旅行など)。 ■安倍首相が座長を務める観光立国推進会議での「アクションプログラム2015」として政策化。 (11)国民の旅行振興に向けた意識醸成・環境整備”の項目において「若者に旅の意義や素晴らしさを伝える「若旅★授業」を地方で拡大するとともに、若者の関心が高い、エネルギーや地域医療など様々な社会テーマを扱ったツアー商品の造成を推進し、より多くの若者が旅に出るきっかけを創出する。【新規】という形で記載。 ■観光から移住定住・産業振興・事業承継・MICE誘致を一貫して実現(例えば林業のツアーを通して5人の事業承継・移住の実現など。これまで20人以上がツアーを通しての移住や2拠点居住を実現したと思われる)。 ■600人以上のボランティアマネジメントを通しての課題の洗い出し。 ■社会起業家の経営者向けカンファレンスR-SICを300人規模で3年連続開催。京都・つくばなどの地域開発に寄与。 ■東大の講義にて200人の学生に対し、ソーシャルビジネスのためのチームビルディングなど講義から30以上のプロジェクトを創出。講義をまとめた著作『いつかリーダーになる君たちへ』(日経BP)がAmazonで部門別1位を達成。 ■被災地の医療現場における鍼灸師などを含めた新たな医療チーム体制の構築と実施 ■R-SICにおけるソーシャルビジネスのプログラム”CrossPoint”、観光庁研修、青森県研修、スタディツアーなどを通して100地域150社以上のインキュベーション支援。 ■述べ20校以上の教育旅行の実施。 ■スタディツアーなどの事業を通して扱うテーマは「農・林・水産業」「環境」「医療・介護・福祉」「貧困」「地域活性化」「公共事業」など200弱。 ■東証一部上場企業なども含め企業の幹部研修や人事研修としての地域課題・社会課題の現場での研修事例も10以上 ■アカデミックなアクティブラーニング、ファシリテーションの講義などを東京大学などの大学教員から各地の教育委員会や校長向けに実施 【リディラバの事業に関連するURL】 [Travel The Problem:スタディツアー専門の旅行サービス] https://traveltheproblem.com/ [TRAPRO:社会問題の百科事典] http://www.trapro.jp/ [TRAPRO移住口コミ:地域の気になる口コミが集まるサイト] https://ju.trapro.jp/ [”社会起業”の最先端を知る]招待制カンファレンス:R-SIC(アール・シック) http://ridilover.jp/R-SIC/ [リディラバ(HP)] http://ridilover.jp/</p>
天野 礼子	あまの れいこ	NPO法人「日本に健全な森をつくり直す委員会」	<p>H23年より、島根県西部の高津川流域の三市町、益田市、津和野町、吉賀町に「総合特区」への立候補を推め、当選。「アドバイザー」を務めた。事務局長を務めるNPO法人「日本に健全な森をつくり直す委員会」では養老委員長と共に、高津川流域に「二地域居住から定住へ」を進めてきている。</p>
荒井 一洋	あらい かずひろ	NPO法人大雪山自然学校	<p>【現場の実践活動】自然体験活動の専門性を他分野に応用している。 ・自然体験×観光＝エコツーリズム:英語で少人数・長期滞在型のエコツアーを実施。旅行者の満足度を高め、地域への経済的効果を高め、ガイドや住人が続けられる観光に取り組んでいる。 ・自然体験×幼児教育＝森のようちえん:企業主導型保育事業を活用し定員12名の保育園を経営している。体験型幼児教育の手法を実践を通して蓄積している。 ・自然体験×発達障害＝ホースセラピー:ドサンコを活用したセラピー事業に取り組み始めた。現在試行錯誤中。 ・自然体験×環境保全＝利用者による公園管理:東川町大雪山国立公園保護協会からの委託事業として国立公園管理の一部を実施している。心理学・人間行動学をベースに、利用者が環境保全する仕組みを構築中。 ・人材育成＝日常的にプログラムが実施されている現場に合わせて、インターンシップやボランティア事業を実施しており年間延べ300人程度が参加している。 【持続可能な観光の普及】 ・持続可能な観光の国際基準GSTC公認トレーナーとして、サステナブルツーリズムの研修や国際認定取得に向けた伴走支援に取り組んでいる。実践で蓄積した知見を全国の方と共有し世界レベルの観光地域づくりに取り組んでいる。今一番必要なのは日本全国で一緒に取り組む仲間。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
新井 信幸	あらい のぶゆき	東北工業大学工学部建築学科 ／特定非営利活動法人つながり デザインセンター・あすと長町	東日本大震災後、仙台市内を中心に各地の仮設住宅、災害公営住宅にて、孤立を防ぐコミュニティづくりと居場所づくりを展開してきました。あすと長町仮設住宅(仙台市)では、仮設住宅でコミュニティ形成、次のステップ(災害公営住宅)に向けたコミュニティ継承の支援を実施し、それらは概ね実現することができました。ステージが災害公営住宅に移行してから、塩竈市内の災害公営住宅などを中心に、居住者(自治)組織形成、集会所の居場所化等の支援を実施してきました。居住者組織形成については、担う役割を住宅管理に絞ったことで、ほぼ全世帯が参加する体制を構築することができました。孤立を防ぐ取り組みについては、集会所を外部に開いて、多様な団体が利用・活動することで、多様なつながりが生まれ、「みんなの居場所」となるよう支援を継続しています。清水沢東住宅(塩竈市)では、約15団体が入れ替わり立ち替りで、毎日のようにイベントが開催され、日中の高齢者や放課後の子どもたちの居場所となっています。また集会所の居場所化には、運営方法にも工夫が必要で、旧来からの自治会費で水光熱費を賄う方式だと利用頻度が高まることで自治会運営が逼迫していきます。そのため、利用する団体が支払う形の利用料金制を導入しました。それによって、利用が促進され、今年に入ってから新たに2団体(書道教室、俳句の会)が定期利用を始めています。
伊藤 晴樹	いとう はるき	Time Colors Lab.	大学在学中にふるさと秋田を盛り上げるため「地域と学生を繋ぐ」という目標に掲げ、地域活性化を目的とした団体ARCグループを設立。1年で100人規模まで成長させ、県全域に活動拠点を整備した。大学、自治会などと連携し、過疎地域への学生の派遣(年間のべ500人規模)のシステムを構築。また、学生の政治への関心を高めるための若者団体AKITA未来創生塾を設立。学生のコミュニティーづくりを進め、平成28年度内閣府主催の未来をつくる若者オブ・ザ・イヤーで内閣総理大臣表彰を受賞。後に秋田県男鹿市地域おこし協力隊へ就任。移住・定住促進をすべくツアーやイベントの企画・運営を行い3年間で560名以上の交流人口を生み出す。また、地域で途絶えていたなまはげ行事(ユネスコ無形文化遺産)を外部人材の力を借り、12年ぶりに復活。取り組みが世界に発信された。その他、TEDxAkitaIntlUのスピーカーなど講演活動など、環境教育や感覚教育の推進、コーチングを軸とした人材育成の事業を進めるためTime Colors Lab.を設立。秋田県地域おこし協力隊OB・OGネットワークの代表として、現役隊員のフォロー体制、OB・OG同士のネットワーク作りも行っている。
井上 将太	いのうえ しょうた	井上地域づくり事務所/井上建築	1988年2月3日生まれ。高知県安芸市出身。 高知大学森林科学科にて森林政策学を専攻。在学中に学生団体FANを立ち上げ、建築学科の学生向けに林業から木造建築までを学ぶセミナー「森の未来に出会う旅」の運営に携わる。現在までに100名以上の学生が木造建築を学ぶ。 高知大学大学院に進学後は高知県嶺北地域にて地域創生を目的とした木工会社である「ばうむ合同会社」にて3年間勤務し、木工製品の商品開発や営業活動に携わる。2010年には全国最年少にて内閣府地域活性化伝道師に認定。2012年には井上地域づくり事務所を創業し、六次産業化プランナーや高知県四万十市にて地域づくりなどにも携わる。 2014年より高知県を出て木材商社にて5年間勤務。愛知県の木材市場での営業や関東にて駅舎や保育園などの地域材調達の業務に関わる。2018年6月より高知県にUターンし、家業である井上建築に入社。「木のこころを、人のくらしに」をテーマにして、森の魅力や木造建築の魅力を発信中。
井上 弘司	いのうえ ひろし	CRC地域再生診療所	○全国各地にて、観光・ツーリズム・6次産業化・雇用創造・中山間地域振興等の講演、年間指導 1. 地域診断の実施(地域課題の整理分析)および課題に基づいた人材育成 2. 地域再生・地域振興に必要なアドバイスの実施 ・グリーン・ツーリズム、ニューツーリズムの推進支援 ・DMO、観光まちづくり事業体の設立指導 ・地域再生の手法や地域づくり・人づくり ・地域資源開発(6次産業化支援) 食、文化歴史、直売所、農村レストラン、農家民宿、体験プログラム、ツアー造成指導 有害鳥獣対策と活用 3. 地域人材育成プロデュース

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
上野 浩文	うえの ひろふみ	一般社団法人コミュニケーションデザイン機構	<p>環境・社会・経済が統合的に向上する持続可能な社会の形成を目指し、持続可能な開発のための教育(英文名Education for Sustainable Development:ESD)の理念に基づくコミュニケーションを通じて、地域社会を構成する多様な主体間をつなぎ、地域環境課題解決を促す仕組みづくりを行い、持続可能な社会の創造と公益に寄与することを目的とし、その目的に資するため、次の事業を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 持続可能な社会の担い手育成事業 2. 持続可能な社会づくりに関係する自治体、NPO等、各主体をつなぐ事業 3. 地域環境課題の解決を目的とした住民協働による社会基盤整備事業 4. 持続可能な社会づくりを推進する主体等を支援(助言・情報提供)する事業 5. 持続可能な社会につながる学術、文化、芸術またはスポーツの振興をはかる事業 6. その他、前各号に掲げる事業に附帯又は関連する事業
内海 芳宏	うつみ よしひろ	日本真珠輸出組合	<p>神戸旧居留地における芸術文化の発表(音楽、美術等)による集客(特にインバウンド来日客にむけた地域特性を活かしたもの)での成功や、神戸マラソン等の地域特性を活かしたアドバイスなど、日本産海水産真珠や、食品の海外現地におけるブランディングでの成功からの経験・手法を講演、教育現場等でお伝えしております。</p>
江口 健介	えぐち けんすけ	一般社団法人 環境パートナーシップ会議	<p>環境分野の中間支援組織である地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)の運営業務を中心に、環境NPOの基盤強化、企業のCSR、環境パートナーシップ形成等への支援を行う。 主として環境省事業である「地域活性化に向けた協働取組の加速化事業」の事務局業務を担当し、環境NPOと自治体、また必要に応じて企業や研究機関、学校、第1次産業などあらゆるステークホルダーとの協働体制構築の支援を全国各地で行ってきた。</p>
大谷 鮎子	おおたに あゆこ	NPO法人 九州キラキラみなとネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境とエネルギー問題 ・みなとまちづくりと女性の参画
大宮 透	おおみや とおる	一般社団法人小布施まちイノベーションHUB/小布施町	<p>小布施町では、自治体行政や地域の中で課題となっているものを発掘し、課題解決に向けた施策立案や計画策定に関わるとともに、課題解決のプロセスに多様な主体が関わり協働的な取り組みが生まれるように、行政と地域住民、地域外の住民(特に若者)や企業、大学などの様々なアクターを繋ぐ場をデザインしています。場のデザインの具体例としては、2012年から開催している「小布施若者会議」や、長野県事業として実施した「信州つなぐラボ」の取り組みなどがあります。</p> <p>また、住民や町外の専門家等を巻き込んだ政策形成の実践事例も多く、行政の政策形成に多様な人材を巻き込む手法やプロセスづくりに取り組んでいます。</p>
岡崎 英人	おかざき ひでと	Okapi Service	<p>経済産業省実施の産業クラスター計画の推進機関として、広域多摩地域(埼玉県南西部・東京都多摩地区・神奈川県中央部＝TAMA地域)が世界有数の環境に配慮したものづくりの新産業創出拠点となることを目標に掲げ、TAMAのポテンシャル(多数の優秀な中小企業や理工系大学の集積など)を活かして、産学官に金融を加えた人的ネットワークの構築・活用(TAMA協会には約150名の登録コーディネータがおります。)と企業の新事業創出活動を支援する施策の立案・実行を進めました。特に、日本の他地域との「広域的な連携」や、市場に大きなインパクトをもたらす研究開発・技術開発につなげるための「大手企業との連携」、市場として魅力がある中国を初めとしたアジア、中小企業が拘りを持ってものづくりをしているイタリア、イノベーションのつぼとも言われるシリコンバレーの展開に力を注ぎました。</p> <p>現在は、コンサルタントとして意欲ある中小企業の戦略的事業展開や自治体・支援機関とタイアップして地域産業活性化のご支援をしております。</p>
岡田 昭人	おかだ あきと	早稲田大学都市・地域研究所／一般社団法人コミュニティネットワーク協会	<p>埼玉県上尾市の密集住宅地再生事業においては連鎖型の共同建替えの4プロジェクトに関わり、その後墨田区向島地区の密集住宅市街地でのまちづくり活動や鳥取市中心市街地での老朽化した防火建築帯のコンバージョン・リノベーションに向けた修復改善型の整備計画策定に携わっている。</p> <p>近年は福祉、医療関係者と連携しながら、高齢者の住居・生活改善支援及びLLPやLLCを立ち上げ、住まいづくりの主体づくりの支援をしている。また社団法人コミュニティネットワーク協会が運営するコミュニティファンド研究会で、新しい市民ファンドの仕組みに向けて調査・研究、提案を行っている。</p> <p>花巻市東和町では、商店主や高齢居住者が地域で支え合いながら暮らすための共同店舗や住まいづくりを様々な制度を活用した共同建替え事業支援やエリアマネジメントを志向するまちづく会社を支援しながら、空き地空き家を活用した美術展や自律的財源を確保するためのまちづくりファンドの組成など地域再生に向けての実践活動を行っている。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
小野田 弘士	おのだ ひろし	早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科	エネルギー・資源循環、モビリティ等を専門分野としており、全国各地でのスマートコミュニティプロジェクトや再生可能エネルギー、未利用エネルギー等に関するプロジェクトの創出を支援している。とりわけ、自らベンチャー企業を創業した経験を生かし、指導・助言のみならず事業化に向けた民間企業のコーディネーター、官民連携スキームの構築支援等を得意としている。具体的には、下記の役割を担うことが可能である。 ・地域特性に応じたスマートコミュニティプロジェクト等のコンセプトデザイン ・再生可能エネルギー等を活用した自立・分散型エネルギーシステムの構築 ・地域ニーズに適合したソリューション(エネルギー、モビリティ、ICT等)の構築 ・企業誘致およびPFI/PPP型事業モデルの設計 ・モニタリングおよび効果測定 等
小野塚 喜明	おのづか よしあき	しおざわ版ダッシュ村	四季を通して農業と観光の結び付きをツーリズムへのろしプロジェクトでは自立型事業へ産業廃棄物処理場計画から環境モデルへ各地へ講演活動
尾山 優子	おやま ゆうこ	一般社団法人環境パートナーシップ会議	地域活性化のためには、地域の各ステークホルダーが協働で解決にあたる必要がある。その協働の場を設け、プロジェクトを支えるコーディネーターの役割に光をあててモデル化するための情報収集・発信をしている。また、SDGsの普及や事例紹介等も実施。
海津 ゆりえ	かいづ ゆりえ	文教大学国際学部	・1. 資源調査(宝探し)の支援 岩手県二戸市や南大東村など、里山や離島等での資源調査に関わってきました。住民とともに宝探しをし、そこからイノベーションを興す活動を支援しています。答えは観光ばかりではなく、ブランド開発等へも展開していきます。 ・2. エコツーリズムの推進 西表島や裏磐梯等でエコツーリズムのスタートアップの支援を行ってきました。このようなエコツーリズム推進地域への全般的アドバイス(推進方策、人材育成等)を行います。 ・3. 宝探しからエコツーリズムへ観光まちづくりへの支援 地域づくりは長い年月をかけ、多様な人とのネットワークを広げながら進めるものです。数年かけて、宝探しからエコツーリズムの推進までの経緯をトータルでサポートします。 ・4. その他 学生参加型調査、プロのガイドとの協働によるツアー開発、日本エコウォーク環境貢献推進機構との連携による「まちあるき」の開発等、私のチャンネルを活かした支援が可能です。
笠原 秀紀	かさばら ひでのり	いなほコンサルティング	問題解決・企画創造のクライアントデザイナーとして、組織、地域の問題解決や人々や地域の夢の実現に取り組んでいます。 1) コーディネイト・プロデュース 地域住民、行政、企業、外部専門家など関係者の協働体制を構築。対立を超え、各種技術、仕組みを含む協働体制を創造し、問題解決、企画を実現に近づけます。本手法では、「仕組みの中核・デザインをどのように作るか」が最大要点になるので、テーマはあまり問いません。下記の例の他、震災など災害復興、ヘルスケア、食、農、社会貢献の資金調達など様々なテーマでの問題解決を行っております。 【環境分野事例】関係者協働体制の構築による環境汚染地域の問題解決。地域のダイオキシン問題解決(ダイオキシン排出量は、住民、行政、事業者の連携により、焼却炉技術だけでは出せない成果が出せる)。「省エネをすると経営がよくなる(省エネ以上の収益効果)」という新メソッドの民間企業群への導入により、地域の企業群が環境に良い活動と経済的発展を両立させる。 2) 新規事業開発(地域版、全国版) 企業1社の事業開発ではなく、地域モデル化、全国展開により、地域や広域的な活性化、業界および経済活性化の実現支援。 【事例】フロン回収技術の開発・技術公開・フロン回収事業の立ち上げ。全国の行政システム(冷蔵後、空調回収)と連動し、行政と協働する地元の小規模事業者の新ビジネスモデル構築。業界は事業用設備等からのフロン回収の新規事業成立。派生事業含み、年間数百億円の市場に成長。 3) (地域の)問題解決スキルアップ支援 地域の「問題解決ができる力」を向上させていく。前掲1)コーディネイトおよび、2)のスキル・ノウハウの一部を地域に渡していく。問題解決するのは地域であり、地域住民。前掲1)2)よりもこちらの方が地域活性化力は格段に向上する。前掲1)は当方が引き上げた後に衰退するケースもある。 4) (地域の)企画・創造力開発支援 地域の未来や願うビジョンを地域の人々で達成できるように、アイデアを出し、夢の実現、問題解決ができる力を向上させていく支援。主役は地域の人々である。当方のノウハウを地域に移していく支援。前掲3)と同様に、地域の力が向上する。 5) 災害復興&予防BCP/M融合メソッド 阪神大震災以降、現場復興コーディネイト、BCP/M(事業計画マネジメント)支援、および、それらを融合した支援。個別企業や組織のBCP/Mを超えた、地域(連携)BCM構築の支援。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
春日 隆司	かすが たかし	特定非営利法人しもかわ森林未来研究所(北海道下川町)	森林バイオマス活用による地域振興、二酸化炭素吸収・削減クレジット創造、森林クラスター創造、包括的資源管理マネージメント、環境未来都市、その他地域振興、まちづくり全般
加藤 孝一	かとう こういち	カルネコ株式会社	<p>【理念】 『日本の森と水と空気を守る』</p> <p>【しくみ】 環境貢献プラットフォームEVI ※95の森林クレジット(県別カバー率84.3%)預託</p> <p>【目的】 森と企業と消費者を結び、クレジットの流通促進、環境保護の支援を行う</p> <p>【事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■規格外のりんごをドライフルーツへ。規格外の椎茸をブランド化 ■地域住民による電気代節約活動と地域経済の活性化を支援 ■国産材・間伐材の利用促進のための販売サイト構築・稼働 ■被災地の森林保護活動を支援する防災キャンペーンの企画・実施(3年間) ■観光と環境貢献の融合＝GREEN&CLEANリゾートの推進 ■EVIがサポートした取り組みの3事例が受賞 <p>鳥取県日南町…日本カーボンオフセット大賞農林水産大臣賞受賞(2016年) 秋田県横手市…カーボンオフセット大賞農林水産大臣賞受賞(2017年) 株式会社八葉水産…東北カーボンオフセット大賞グランプリ受賞(2020年)</p>
加藤 裕之	かとう ひろゆき	東北大学未来科学技術共同研究センター	下水道が有する資源を農業に利用することは、下水道の有するイメージ等からなかなか難しいプロジェクトである。全国的なベストプラクティスを紹介することで、進めるための技術的手順、地域内のコミュニケーションの取り方、マスメディアの活用等を織り交ぜながら、次第に普及展開していく方法を理論化している。この普及理論は、下水道の農業利用にとどまらず、さまざまな地域活性化のためのムード作りにも役立つと考える。
北尾 洋二	きたお ようじ	株式会社ザメディアジョン・リージョナル／大分県立芸術文化短期大学 情報コミュニケーション学科	<p>「地域のために、地域を越えて」及び「新卒採用で地方創生」をミッションとした、新しいタイプの「創職」サポート・「ジョブメーカー」として日々活動しています。メディアのアレンジメントから出版・広告代理・編集プロダクション、まちづくりコーディネーター・社会調査、ワークライフバランス、男女共同参画推進、障害者雇用支援、新卒採用支援に至るまで、地域活性化から企業活性化までをカバーします。「ご縁と感謝の経営」を軸にしなが、「ひとつづくり まちづくり くにつくり」をモットーに活動を展開しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域活性化と発展は「雇用・就職」から／学生、企業、地域社会の立場をしっかりと理解し、お互いの納得度を高める就職支援と企業の採用支援(採用ノウハウの提供、経営指導など)、そして地域コミュニティとしての場づくりを行なっています。(実績:文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」、厚生労働省「地域人づくり事業」、島根県庁、山口県庁、大阪府大阪市、岡山県岡山市、山口県山口市・下関市・岩国市、島根県益田市など) ● 地域資源の掘り起こしを「若者目線」で／アクティブラーニング(サービスマーケティング)の手法を用いたフィールドワークで、地域の課題を若者目線で改善提案。「連携」という言葉の枠を越えた、地域づくりを展開しています。(実績:文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」、厚生労働省「地域人づくり事業」、日本環境協会「いきものみつけファーム」及び「こどもエコクラブ」、各自自治体「まちづくり講演会」、ソーシャルネットワークワーキングサービス(SNS／facebook、twitter、Instagramなど)を活用した情報発信事業及びイベント企画、SNSに関する利用実態調査、地域の魅力度調査、大分県竹田市・豊後高田市・姫島村、山口県山口市・下関市・宇部市、島根県江津市、高知県宿毛市、宮崎県串間市、山口銀行・山口フィナンシャルグループなど) ● 地域の歴史をテーマとした研究活動、魅力発見及び研修事業展開／歴史街道・萩往還散策マップ実行委員会、夢街道ルネサンス、知覧研修、萩・松下村塾をテーマとした現地調査活動、月刊松下村塾・月刊高杉晋作・龍馬と長州等の歴史ムック発刊とプロモーション、日本風景街道などの調査研究及び産学連携のフィールドワークを実施しています。(実績:文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」、鹿児島県南九州市、山口県周南市・萩市・山口市・防府市・下関市、宮崎県串間市など)
北村 省一	きたむら しょういち	株式会社サイテック	<p>【地域産業支援】 情報社会における企業のフィンダビリティ(見つけてもらうこと)をテーマに、企業活動の存在を知ってもらう基盤づくり(Smart-PR等)、集客事業戦略を中心に取組んでいます。具体的には、チラシづくり、メディア活用を提案し、売上げ直結の支援を目指しています。</p> <p>【地域づくり(人材育成・産業振興)】 80年代後半、経済成長が鈍化する中、地域振興(人材育成、産業振興)等の観点から 公立等の大学づくりが熱心に行われてきました。福岡県、広島市、神戸市、滋賀県、兵庫県、和歌山県などで大学整備に向けた企画提案、構想づくりのお手伝いして参りました。中でも、広島市立大学や滋賀県立大学が設立され、地域に根差す先進的な大学となっています。</p> <p>【自然資源調査】 各地の河川整備に伴う自然環境調査、福岡の那珂川、和歌山の日置川(河川水辺の国勢調査)などでは魚介類調査を行い、地域資源とその活用環境について明らかにし保全と創造の方向を提案しました。平成24年には高浜町の産業振興のため、青葉山の植物調査を行い、有用植物の選出を行い、植物資源を活用した事業提案をしました。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
衣笠 愛之	きぬがさ よしゆき	(有)夢前夢工房 (株)兵庫大地の会	<p>平成6年 ・農業規模拡大を決意する(専業農家へ)</p> <p>7年 ・経営改善計画認定取得する(認定農業者)・無農薬栽培本格的にはじめる</p> <p>9年 ・生きがい農園を主催する</p> <p>11年 ・農業生産法人設立 ・夢そば作付け開始 ・小学校農業体験に関わる</p> <p>12年 ・青空市場「夢」設立 ・夢そば推進協議会を結成する</p> <p>15年 ・特定農業生産法人認定される ・夢そば乾麺完成 ・ひょうご安心ブランド取得(無農薬認定)</p> <p>17年 ・新規就農研修施設「夢工房」を設立する</p> <p>18年 ・環境創造型農業兵庫県モデル地区に認定される(10ha)</p> <p>20年 ・食育アドバイザー指導を始める ・第1回たんぼアートを開催 ・地元スーパーとの連携開始</p> <p>21年 ・姫路市夢さき夢のさとの指定管理者になる(夢やかた)・農家レストラン「夢工房」オープン</p> <p>22年 ・産官学連携商品開発への取り組み、米粉食品指導員免許取得((財)日本穀物検定協会)</p> <p>23年 ・6次化法認定(農林水産省)、食と地域の交流推進事業認定(平成23～24年)</p> <p>24年～25年 ・イチゴハウス(37a)、直売所「夢街道farm67」開設</p>
久保田 学	くぼた まなぶ	公益財団法人北海道環境財団	<p>(1)環境教育・環境保全活動に関するコンサルティング、協働支援</p> <p>・「環境」「北海道」を軸に、さまざまな課題解決に向けた事業・活動の設計、リソースの紹介、情報提供等を幅広く行っています。</p> <p>・寄付金と道内の環境保全活動とのマッチング等もお手伝いします。</p> <p>・地域の温暖化対策や環境教育・人材育成等に関する事業協働、政策協働も行います。</p> <p>(2)環境分野における政策コミュニケーションの企画・実施</p> <p>・環境政策への市民参加、政策協働の企画、設計、実践をお手伝いをします。</p> <p>・政策に関する意見交換、政策提言やパブリックコメントを引き出すワークショップ等、地域と環境政策をつなぐ場づくりを企画、実施しています。</p> <p>(3)スタディーツアー、フィールドワークショップ等の企画・運営</p> <p>・地域の環境・自然資源や産業・歴史の魅力を楽しみ、伝えるさまざまな形のプログラムをESD(持続可能な開発のための教育)の視点も込めて企画、実践しています。</p>
熊倉 浩靖	くまくら ひろやす	高崎商科大学	<p>(1)市町村、小学校区等を単位とした地域づくりを歴史・文化資源を活かして支援</p> <p>(2)市町村総合計画・総合戦略の策定・進行管理の策定・推進をアドバイス</p> <p>(3)市町村行政評価・経営改革をベンチマーキング手法で分析・支援</p>
栗原 秀人	くりはら ひでと	下水道広報プラットホーム	<p>「水の価値」は用水供給の他、街並み形成と品格、癒しと遊び、生態系保全、産業・観光などの地域産業等々多面的に及びます。一方で、災害、濁水、水質汚濁等々の水の脅威も私たちを取り巻いています。先人たちの「水の脅威」と闘いながら、「水の恵み」を得続けるための累々とした努力の積み重ねの上に、今日の私たちの暮らしや地域社会が育まれています。「水」は地域の宝ですが、ややもすれば豊かさや便利さの中で、そのことを忘れてしまい、水辺からも遠ざかってしまいがちです。何もしなくても「水の恵み」が得続けられると思っているかもしれません。改めて、地域の皆さんと一緒に、現地踏査、ワークショップ、パネルディスカッション等の参加型・協働型取り組みを行い、①地域ごとの『「水の脅威」と「水の恵み」の再確認』②先人達が残した有形無形の『水遺産探し＝地域の宝探し』③『水を上手に付き合うこれからの街づくりの姿、目標像の共有(水辺づくり、水に強い街づくり、水を活かしたまちづくり、循環型社会づくり等々)』④目標の実現を目指した公共・市民等のそれぞれの行動計画(加害者と被害者等の立場を踏まえた協働・参画、責任と役割分担等)』等を明らかにし、地域総ぐるみ活動を展開していきます。中でも、「下水道の価値と機能」を活かした新しい水環境づくりや下水道と一体となった農林水産業の展開による地域づくりを取りまとめているからと思っています。</p>
小島 大	こじま だい	ささつな自治体協議会	<p>全国各地の40数人の首長陣が集う、ささつな(ささえる・つながる)自治体協議会の議長・事務局としまして、会員自治体を中心とした住民の皆様的生活に貢献・寄与する事を目的とし、都内の大学の教授陣や自治体職員と連携して、首長陣を中心としました交流促進のための意見交換会、勉強会、懇親会等の開催などにより、地域を超えた複数の自治体間で締結しました防災協定を主な活動として自治体支援活動に取り組んでおります。</p> <p>同時に、会員自治体の道の駅等の商業施設を連携させること等により、スケールメリットを活用させることで、地域産業の振興、特産品の販売等による地域経済の活性化活動に寄与して参りたいと思います。また地元大学の教授陣と研究会を開催しての農業・教育分野を中心としましたまちづくり推進支援活動と共に、ささつな自治体協議会と連携しております大手企業陣の集い、ささつなCSR協議会の企業メンバーと協働することで、ささつな自治体協議会の会員自治体様を中心に多岐な分野において自治体支援事業を行って参りたいと思います。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
小島 玉雄	こじま たまお	サン・アクト株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の貴重樹木や天然記念物の診断や回復を通じた地域資源の保全、地域活性化。 ・サクラの樹勢回復による観光地の名所の保全、地域活性化。 ・サクラでは、各種メディアへ取り上げられ、数多くの観光客が訪れる事例を多数有する。 ・樹木の診断技術開発を産官学連携で行い、地域再生に繋がる仕組みを多数構築。 ・京都大学等、大学と連携したプロジェクトを実施し、地域に貢献する仕組みづくりの構築。 ・各種メディアや企業との連携により、地域の再生・活性化に繋がる仕組みづくりの構築。 ・サクラを活用した地域コミュニティの再生、活性化。 ・樹木再生だけでなく、対象地域の活性化・立ち上げ支援。
小島 由光	こじま よしみつ	株式会社スーパーソニック / 五島列島水産流通株式会社	<p>第3次産業(流通・外食マーケティング)の目線で第1次産業、第2次産業を結びつける6次産業化を実践。地域の特産品を見出し、川下の流通戦略をもって生産物が流通し、地域活性化に繋がる仕組み構築を行います。第1次産業・・・地域活性化支援事業 農産物・水産物のブランディング及び流通提案。第2次産業・・・地域特産品の消費マーケティング、ターゲットを踏まえた商品開発提案。第3次産業・・・流通、外食事業 コンサルティング、経営分析。●水産物(鮮魚)の産地直送の仕組み構築による目詰まり解消を行う。飲食店への直接流通によって生産者の収入高と購入者の仕入れコスト削減を実現、また産地直送により最短時間で届くため鮮度保持が向上し、多くの水産物流通につながる。(五島列島水産流通) ●地域活性化に伴う地元主体組織構築と特産品開発、ブランディングにより地産地消型消費構造から地産他消に拡大。地域の知名度向上と特産品販売増を実施。(久賀島 ファーム) ●千葉県鴨川市の海辺のエリアにおけるまちづくり計画のプロジェクトマネジメント業務、総合交流ターミナルを中心とした地域グランドデザイン基本設計を行う。(まちづくり計画) ●鹿児島空港の飲食施設基本コンセプト計画及び県産品の商品開発により6次産業化を行い販路拡大及び店舗のコンサルティングを行う。</p>
小林 英嗣	こばやし ひでつぐ	一般社団法人 都市・地域共創研究所/北海道大学	<ol style="list-style-type: none"> ①地域の主体(行政・NPO・住民・企業・大学など)との連携を構築しつつ、都市や地域の創造的再生を臨床学的かつ協働的に支援。 ②全国の地方都市と地方大学の共創的なキャンパスマスタープランの立案と地域再生と結びつく実現戦略を支援。 ③地方都市において、「シティ・ブランディングとなる大学と地域社会との連携と共生による創造的再生」の戦略と戦術、加えてマネジメントプログラムを、まちづくりとキャンパスづくりの両側面から支援。 ④全国まちづくり活動をNPO日本都市計画家協会・会長として発掘・支援し、全国まちづくり大会を開催。
駒田 健太郎	こまだ けんたろう	コマケンラボ	<p>2016年～ 会津地域インバンド推進事業(「サムライシティ会津観光再生事業)コーディネート</p> <p>2015年～ 栃木県鹿沼市「加蘇芸術村」プロデュース、アートディレクション</p> <p>2015年～ 鹿沼市産梨「にっこりなし」の海外展開プロデュース</p> <p>2013年～2015年 岐阜県白川町エコツーリズム推進業務</p> <p>2013年～ 会津の新しい地域ブランド「ハンサムウーマン」プロデュース(経済産業省補助事業)</p> <p>2013年 会津地域の観光地域づくり事業プロデュース</p> <p>2013年 鹿沼さつき盆栽&組子細工の海外展開プロデュース(経済産業省クールジャパン事業)</p>
小山 舜二	こやま しゅんじ	鞍掛山麓千枚田保存会	<p>かつては約1,300枚の田が広がっていたが、耕作放棄が進行し、373枚まで減少、H3年、50歳の誕生日に四谷の千枚田を「地域の宝」と位置付け保存活動を始動。H9に「鞍掛山麓千枚田保存会」を結成し、保全に向けた取組を続けた結果、420枚まで復田。多様性に富んだ四谷の千枚田を主役に自然観察会、地元小学校や高校、また、調理製菓専門学校等々の稲作体験学習の実施、企業研修の場として活用するとともに、癒やしを求める外部との交流「お田植感謝の夕べ」～灯そう千枚田～や「収穫感謝祭」を実施。会長として中心的な人物として地域をまとめ、取組を推進している。</p>
斉藤 俊幸	さいとう としゆき	イング総合計画株式会社	<p>2003年関東学院大学まちなか研究室追浜こみゆに亭開設に参加(2003年)、有明高専現代GP事業推進(文部科学省2005年)、全国水産高校生徒研究発表大会四国大会で高知海洋高校うめプロジェクト優勝支援(2009年)、国際教養大学生による高校生向け英語合宿開催(秋田県由利本荘市、総務省地域力創造アドバイザー事業2010年)、千葉県立松尾高校スーパーグローバルハイスクール「地域から考えるグローバル・エイジング研究」(文部科学省2015年)、大阪府立能勢高校スーパーグローバルハイスクール「国際協力の現場で判断力と実践力を培うグローバル人材研究」(文部科学省2015年)、地域活性化センター土日集中セミナー「魅力化による高校の生き残り」と地域活性化」主任講師</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
坂本 世津夫	さかもと せつお	愛媛大学 社会連携推進機構	<p>H14年4月からH17年3月まで、愛媛大学にて「地域情報学」(伊予銀行寄附部門)を担当する。H17年4月からH23年3月まで、高知大学国際・地域連携センター教授(生涯学習部門長)。平成26年10月より、愛媛大学社会連携推進機構教授として、文部科学省の「地(知)の拠点整備事業(COC事業)」、「地域の未来をステークホルダーと共に創る実践的人材の育成」に取り組んでいる(愛媛県南予地域担当の、地域連携コーディネーター)。その他、日本の情報化を、地域という視点で見直し、地域における「知的能力」と「コミュニケーション能力」を高めることにより、新たな産業集積や地域の活性化(地域の自立)が実現できないか、研究・実践している。</p> <p>APPLIC(一般財団法人 全国地域情報化推進協会)の「ICT地域イノベーション委員会」でアドバイザーを務めている他、四国のICT利活用促進、ICT地域イノベーション、ICT人材育成に取り組んでいる。</p> <p>平成15年9月、「地域産業おこしに燃える人」(内閣官房・経済産業省)に選定される(小泉総理より、首相官邸にて)。平成19年3月、内閣官房より「地域活性化伝道師」にも選定される。地域情報化アドバイザー(総務省委嘱)、四国情報通信懇談会、日本テレワーク協会(アドバイザー)、ICT地域マネージャー(総務省委嘱)、現代龍馬学会 他</p>
崎田 裕子	さきた ゆうこ	ジャーナリスト・環境カウンセラー	<p>くらし・地域など足元から持続可能な社会の実現を目指して、NPO活動、個人での活動、行政委員として生活者視点での実践及び政策提言活動を実施。</p> <p>■「NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット」理事長として、</p> <p>1)「市民がつくる環境のまち“元気大賞”」表彰で全国の個性ある地域環境活動を応援。</p> <p>2)全国の地域環境活動キーマンを集め「環境まちづくり体験エコツアー」を実施。2011年は、前年入賞地・熊本県八代市で、市民相互交流(環境まちづくり・学び合い)を実施した。</p> <p>3)資源エネルギー庁主催の高レベル放射性廃棄物に関する地域ワークショップ「共に語ろう 電気のごみ」を、全国で実施。</p> <p>■「NPO法人新宿環境活動ネット」代表理事として、</p> <p>1)地域と学校の連携による「新宿の環境学習応援団・まちの先生見本市」開催。</p> <p>2)「新宿区立環境学習情報センター(エコギャラリー新宿)」の指定管理。</p>
佐藤 安紀子	さとう あきこ	NPO海のくに・日本	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業と魚食文化について考えるシンポジウムの開催(1993年～) ・漁村の女性と都市部の女性の交流活動「浜のかあさんと語ろう会」(1996年～) ・小学生と漁村が交流する海彦クラブ活動(2000年～2011年) ・小学生が離島を取材するわかれは海の子活動(2012年～) ・水産の意義を伝える本の制作、発行「クジラから世界が見える」 ・モロッコからナミビアまで西アフリカ22カ国の女性漁業者ネットワークを対象に、日本のすり身文化を伝えるワークショップ活動を連続実施(2011年～)。アフリカ開発会議にもアフリカの女性たちとともに参加し漁業の重要性を発信。
佐藤 皓嗣	さとう ひろし	有限会社日智(ニッチ)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域環境と住まい手ニーズをしっかりと検証したまちづくり計画の推進支援 ・地域ポテンシャル分析とともに、「住まい手ニーズ」と「主体者ニーズ」の掘り起こし ・地域資源(人、もの、歴史、観光、文化、環境など)の開拓 ・まち機能(医療福祉、教育、環境整備、生活利便施設など)の配置とゾーニング計画 ・まちづくりの担い手人材育成・継続できるまちづくりの仕組み作り指導 ・地域コミュニティ創出に向けたサービスや収益事業、施設計画事業などの指導 ・中心市街地活性化基本計画の推進におけるプロセスマネジメントの指導
澤 克彦	さわ かつひこ	一般社団法人九州環境地域づくり 九州地方環境パートナーシップ オフィス	<p>協働取組支援</p> <p>○企業やNPOからよせられる企画プログラム等について、多様な主体を連携させながら取組を充実させる。例)企業による社員研修のコーディネート。企業取組についての意見交換の場づくり。</p> <p>○モデル事業等を活用した、協議会活動についての助言・支援活動</p> <p>例)環境省同時解決事業採択団体への支援等。</p> <p>環境教育・ESD取組支援</p> <p>○環境教育のネットワークやプラットフォームと連携した、経験交流の場づくり。NPOと連携した環境保全・教育プログラムのコーディネート。</p> <p>例)環境教育ミーティングの企画運営。企業が支援する環境保全プログラムのコーディネート。</p> <p>SDGsの普及啓発</p> <p>○SDGsについての理解促進、多様な分野における活用、連携について講師等を務める。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
澤田 廉路	さわだ としみち	(一社)鳥取県建築士会／(株)地域資源活用研究所	<p>【地域衰退を再生させた主な取組実績】</p> <p>■1. 地方中心市街地の再生実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・境港市、水木しげるロードの調査し、理論的にかつ情熱的に支援活動等を実施 ・倉吉市玉川白壁土蔵群を中心とする倉吉の街並み整備活動と活性化の実施 ・鳥取市鹿野町のまちなみ整備活動の推進(いんしゅう鹿野まちづくり協議会と一緒に「鹿野まち普請の作法」等も作成) <p>■2. 中山間地域の再生実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鳥取県智頭町で、智頭杉「日本の家」等を手掛け、智頭町活性化プロジェクト集団に所属し、日本0/1(ゼロ分のイチ)運動の活動支援、四面会議システム等の活性化手法に携わる ・いなばのジビエ推進協議会を全国に先駆けて立ち上げて、中山間地域の獣害対策と厄介者を活用した地域振興の支援を実施 <p>■3. 地域を活性化させる研修教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政、大学(教員・学生)、住民、NPO関係者等との課題解決型研修を行ってきた様々な異なる主体の人々を結びつけ一緒にグループワークを行なうことで課題解決に向かう手法を学ぶ研修を実施
沢畑 亨	さわはた とおる	愛林館	<p>1:食</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近所の素材を中心に加工食品(味噌、漬け物、ドレッシング、クッキーなど)を製造販売。 ・近所の素材を活かした「ふるさとレストラン」を月2回開店し、高齢者の活性化に貢献。 ・水俣の素材を味付けした本格タイカレー・インドカレーなどのレストランを土日祝日に営業。 ・そば/うどん/豆腐/こんにやく/バウムクーヘンを2時間で作る体験教室。 ・家庭料理を持ち寄り、食べる「家庭料理大集合」を10回開催。集まった料理約700種はデータベースとしてまとめた。 <p>2:環境学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアと植え、草刈り・つる切りを行った21haの「水源の森づくり」。 ・棚田25aで香り米を耕作。50aの草刈りを山羊を活用して行う。 ・会費をいただいた会員向けに大豆を育て、収穫を配当する「大豆耕作団」森を棚田保全を行い、食育のプロを「棚田食育士」を養成し、屋根のない博物館「村丸ごと生活博物館」でグリーンツーリズムを行う。 熊本県「緑化功労者」、棚田学会「棚田学会賞」、総務省「過疎地域自立活性化優良事例」総務大臣賞など受賞多数。
椎川 忍	しいかわ のぶ	(一財)地域活性化センター／(一社)移住・交流推進機構／日本創生委員会／地域に飛び出す公務員ネットワーク	<p>人材育成と地域おこしをライフワークとして、土・日・祝日を殆どつぶして全国を行脚し、支援活動や講演を行う。</p> <p>地域に飛び出す公務員ネットワークを結成。これを応援する首長連合の設立を提唱。国際日本文化研究センターでは「森里海連環」の研究に参画。政策研究大学院大学とも連携。</p> <p>日本創生委員会では、林業復活・地域創生推進委員会アドバイザーとして活動。木島平農村文明塾、やねだん故郷創世塾、葉っぱビジネス(株)いろどり、TOSS(まちづくり教育)、ふれあい囲碁ネットワーク神奈川、高知県の地域産業おこし、山形創生NPO支援ネットワーク、東近江市魅知普請、山梨農業協力隊と故宮原文太さんの農業生産法人、日本フットバス協会、全国各地の市町村職員研修所など数多くの活動と連携。</p>
四宮 博	しのみや ひろし	洞爺湖温泉利用協同組合	<p>平成17年静岡県伊豆の国市伊豆長岡温泉の温泉供給施設の老朽化に伴い、温泉集中管理施設整備事業の設計管理に関わり温泉資源の見える化による資源保護と省エネ型供給施設の構築を実施した。また平成22年鳥取県米子市皆生温泉の温泉供給施設の一步進んだ集中管理施設整備のプランニング設計を構築。平成23年長野県安曇野市穂高温泉 西穂高地区の温泉供給施設のエネルギー利用率向上の技術指導を行った。</p> <p>平成25年岩手県盛岡市繋温泉が集中豪雨により温泉供給施設に被害を受け、復旧計画書を作成及び復旧事業支援を行う。</p> <p>令和元年度伊豆長岡温泉事業協同組合の温泉供給施設の効率化による省CO2促進事業の技術指導(温泉熱利用計画や電気設備(インバーター設備に更新)の利用効率向上など職員の技術向上に関するアドバイス指導)</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
柴田 いづみ	しばた いづみ	結まちづくり研究所・柴田いづみ まちなか研究室／SKM設計計 画事務所	<p>主な取組</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 環境 →内湖再生の基礎調査 琵琶湖の内湖再生の為の活動。 2 中心市街地活性化 → 学生サークルACT(Action Connect with Town)との空きビルを使った中心市街地拠点活動。 3 まちづくり → (主に滋賀)NPO彦根景観フォーラム副理事長として、又、LLPひこね街の駅等での活動。歴史・景観・まちづくりフォーラム実行委員長。大学より拠点をなちなかに移し、地域に密着したまちづくりに取り組む。重要伝統的建造物保存地区(文化庁選定)の景観計画、交通計画、建物の修景計画等のアドバイス。(東京)目白まちづくり倶楽部で各種活動。 4 耐震・防災 →NPO東京いのちのポータルサイト理事として、各方面に提言。防災・耐震・まちづくりフォーラム実行委員長、木造伝統構法の耐震事例づくり。
島田 幸子	しまだ さちこ	一般社団法人 環境パートナー シップ会議	<p>関東地方環境パートナーシップオフィス(関東EPO)において、環境省の地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業及びESDの推進等に取り組んでいる。国連生物多様性の10年日本員会(UNDB-J)事務局、水俣病の経験を次世代に伝えるセミナーの企画運営等も行っている。</p>
下田 祥裕	しもだ よしひろ	真砂不動産株式会社／[元] NP O法人KAO(カオ)の会]	<p>NPO法人KAOの会では、以下のエリアマネジメント活動を行っていました。 ※()内は活動の概要、【】内は仕組みを表しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.公共空間の維持管理(駅前広場管理業務)【市委託＋地域住民直接負担】 2.賑わい創出(イルミネーションイベント、夏祭り、コンサート、寄席)【公民連携、私企業協賛】 3.デザインコントロール(ビル外観や道並み景観の同調)【地権者間調整】 4.テナントミックス(リーシング、営業内容調整)【新規開発ビル商業床の一括借上げ】 <p>このほか、各種講演活動や視察ヒアリングの受入れも実施してきました。 いわき駅前復興まちづくりに於いては、今までの経験を生かしつつ、白紙のキャンパスに描くべく、「地域を元気に」、「未来に夢を」を基本理念として、「30年先を考えたまちづくり」を目標として、今出来ることを一歩一歩進めるべく助言し、実行可能な企画立案を行い、行動することを目指します。</p>
新海 洋子	しんかい ようこ	一般社団法人SDGsコミュニティ	<p>SDGsの達成の向けての、セミナー企画・講師紹介、教員を対象にしたESD研修、主に中小企業を対象にしたコンサルティング等。 企業を対象にしたファシリテーション研修、市民を対象にした参加型対話型学習研修・イン タープリテーション研修、協働による地域の課題解決のためのプロジェクト企画・運営・コーディネート、高校生を対象にした環境学習プログラムづくり・実施支援、大学生を対象にした企業との協働による提案づくり支援等。</p>
進士 徹	しんし とおる	一般社団法人あぶくまエヌエス ネット	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域防災対策。著書「まさかの時の生き残り塾」があり、災害教育の視点から地域コミュニティのあり方を探求します。東日本大震災・福島原発事故経験から、非常時に対する備えなど地域間交流を日頃から活発に行う事の重要性をお伝えします。日本＝災害列島。命・地域を守る事をシェアしていきます。 2. 都市交流「ライフシェアリング」事業の提案をしています。過疎中山間地域には課題が山積しています。課題を交流事業から解決してゆく手法の提案です。1年365日のあなたの7日間を地方で汗を流しましょう・・・ 3. 地域再生のあり方を、過疎地での自然学校活動経験からお伝えします。キッズツールズで日本を元気にする。 4. 指導者養成「自然体験・地域リーダー・人材育成・まさかの時の生き残り塾」上記事項を講演・セミナー・ワークショップ形式など受講者の参加型で行います。幼稚園・小・中・高・大学・専門学校、国立青少年自然の家、自治体、各種グループからの依頼。
鈴木 邦治	すずき くにはる	一般社団法人 頑張る地域支援 し隊	<ul style="list-style-type: none"> ・地域イノベーション創出による地域活性化及び人材育成、まちづくり ・自治体の広域連携による情報通信を用いた教育、介護、農業等の推進 ・新エネ省エネによる新産業の創出 ・地域資源を活用した6次産業の開拓 ・防災、減災を踏まえたまちづくり(スマートコミュニティ) ・道の駅やインキュベーション施設などの活性化 ・企業誘致・公募事業による実証実験や研究ほか
善養寺 幸子	ぜんようじ さちこ	株式会社 日本農水産食品輸出 貿易センター	<p>《地域の賑わいづくり・地域活性化》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都会の団地と地方の生産者を繋げ、高齢者対策と地域活性化の両方の課題解決に向けた「団地の産直ぶちマルシェ」の事業化に向け、複数企業と協働実践研究に取り組む中。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
曾根原 久司	そねはら ひさし	特定非営利活動法人えがおつなげて	山梨県北杜市須玉町増富地域は、かつては農林業が盛んであったが、現在は担い手の減少や高齢化に歯止めがかからず、集落崩壊の危機が迫る地域である。高齢化率66%、耕作放棄地52%、という、いわゆる限界集落となってしまった地域である。そんな状況の中、2003年4月の構造改革特区認定のもと、都市農村交流活動を行うことにより交流人口を増大させ、地域の活性化につなげようとする活動が始まった。この活動の開始から約10年経過した現在、活動に賛同した農村ボランティア等も含めて都市部から約50,000人が訪れ、耕作放棄地5haの復活、その農地での新たな形での農業生産、また企業の連携による遊休農地活用等の成果も現れてきている。現在、連携している企業は、三菱地所グループをはじめ、博報堂などの大手企業に始まり、山梨県内の金精軒、清月などの菓子製造企業などである。また、全国の山梨、宮城、福島、三重、熊本、福岡、佐賀、東京などで、都市と農村つなぐビジネスプランを作る人材研修事業「えがおの学校」を実施している。受講された研修生は、700名ほどとなっている。また、そのうち200人ほどが、各地域で起業を果たしている。
高橋 朝美	たかはし あさみ	一般社団法人環境パートナーシップ会議	学生時代よりグリーンツーリズムに携わり、有機農業が盛んな地域での農協職員経験を経て、2014年より現職。主に関東圏内で、地域の環境課題解決に取り組む様々な主体(市民団体、自治体、企業)をつなぐコーディネーターを担っており、協働取組やESD人材育成に関わる業務など、地域での環境課題解決に向けた取り組みを支援している。
高橋 肇	たかはし ただし	山口大学農学部	「小麦栽培から始めるパンづくり」～山口県産小麦粉を使った地産地消パン普及のとりくみ～ 山口県周南市で「自分たちで栽培した小麦を収穫してパンをつくりたい」という田舎好き、パンづくり好きの仲間たちとともに、石窯を使ってつくるオリジナルのパンづくりを研究してきた。10年間の研究を通じて、山口県のすすめる県産小麦を使った地産地消パン普及のとりくみにも協力してきた。小麦栽培、小麦粉の製粉、石窯の扱い、パンづくりなどの科学として演出し、大学の公開講座として市民に提供してきた。講座の受講生を介して仲間をひろげ、とりくみをすすめている。このとりくみは、過疎高齢化で崩壊しようとしている地域でのコミュニティ回復策の一例として農林水産業関係者から注目されてきたとともに、食育や食農教育の素材として環境教育関係者からも注目されてきた。
竹内 よし子	たけうち よしこ	特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク	①アフリカ・モザンビーク支援関連:松山市や小学校等と協働し、放置自転車をもザンビークに送り、銃を回収するプロジェクトを支援。放置自転車対策からまちづくり支援、学校教育支援から地域ぐるみの取組みへと発展。現在は、持続可能な社会づくりのための「学び」と「実践」の拠点として現地で公民館を建設しコミュニティ開発に取り組んでいる。本事業については、学校から地域へと広がり、企業・メディア・ミュージアムなども関わって国際・平和・環境・人権・多文化共生教育の一環を担っている。②東雲公園関連:公園の一部(未利用地)を活用し、NPO法人えひめ311と愛媛大学とともに「コミュニティファーム」として取組みが展開できるよう、町内会、松山市公園緑地課等関係者との調整を図り、小学校児童の生活科の授業で環境ESDモデル学習の実践を行い伴走支援を継続している。③その他、各種学校との連携により多様な主体が地域のコミュニティづくりに関われるよう支援・助言している。
竹田 純一	たけだ じゅんいち	東京農業大学／農山村支援センター	山村活性化支援交付金事業(茨城県、高萩市、日立市、城里町、埼玉県秩父市、小鹿野町、三重県いなべ市、福井県若狭町、島根県邑南町、大分県杵築市)他(農林水産省) 社会的協働による山村再生対策構築事業「山村再生支援センター」(林野庁) 里地里山保全方策の検討とモデル地域づくり(環境省) トキの野生復帰をめざした共生と循環の地域社会づくり(環境省、新潟県) 人と自然が織りなす里地環境づくり(農水省、環境省) アベサンショウウオの保全と地域社会づくり(福井県庁) 神奈川県里地里山条例検討委員、里地里山づくり事業、他(神奈川県庁) 日本の里地里山30保全活用コンテスト事務局(読売新聞、環境省) イオン里地里山保全活動(イオン環境財団)、その他、エコスクール、再生建築の調査、水保セミナー、市民政策提言フォーラム、かおり風景百選、星空の街あおぞらの街全国大会(環境省)

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
田中 丈裕	たなか たけひろ	特定非営利活動法人 里海づくり研究会	<p>・アマモ場は、「海のゆりかご」と呼ばれ、海洋生態系や沿岸環境の保全に不可欠であるだけでなく、ブルーカーボンとして温室効果ガスCO2の吸着固定にも重要な役割を果たしている。「アマモ場再生活動発祥の地」と言われる備前市日生町において、35年以上にわたって漁師達と共にアマモ場再生活動に取り組み、ほとんど消滅したアマモ場を250ha以上にまで回復させた。これを契機として周辺にもこの取り組みが広がり、2007年岡山市、2013年瀬戸内市が着手し、1980年代に県下で約550haまで衰退したアマモ場は2015年には約1,845haまで回復、2015年には笠岡市、寄島町、玉野市も参画して活動範囲はほぼ県下全域に拡大、さらなるアマモ場の回復に注力している。</p> <p>・アマモ場再生活動など里海づくりをベースとして、2013年からは小中高校の子ども達、一般市民、農林業者など世代や立場・地域を越えた活動を展開するとともに、「みなと学習会」・「みなと親子学習会」などを企画開催し、海の生き物と触れ合いながら、港や海についての学びの場を提供するなど、学校教育・社会教育としての海洋教育の推進に取り組んでいる。</p> <p>・森里川海の連環を軸に据えながら、備前市・笠岡市など「里海」と真庭市など「里山」を結び、さらには人と物の流れで里海・里山・「まち」を繋ぐことにより、真の循環型地域社会の構築を目指している。</p> <p>・シンポジウムや交流集会、ワークショップなどを企画開催するとともに、国内外の各地において講演や学会活動等を通じ、里海概念の普及と里海づくりに奔走している。</p>
田邊 寛子	たなべ ひろこ	まちひとこと総合計画室／うなぎのねどこ／ご近所大学うなどこキャンパス	<p>【アドバイザーとしての取り組み】</p> <p>・観光：地形や境界など地理的な要素も地域資源ととらえ、歴史や産業と合わせたその地域らしい観光づくりを持続可能な仕組みづくりを視点にアドバイスをしている。 例)長野県辰野町：横川渓谷地域資源活用観光モデルコースの住民の主体的な開発事業に講師として参画。</p> <p>・社会福祉：離島の福祉について、地域資源の活用し、障がい者や高齢者の「生きがい」「自立」「持続可能」を視点に場づくりの支援を行っている。 例)鹿児島県徳之島：社会福祉法人の複数の施設の再編と改善を地域と連携した施設づくりのアドバイザーとして参画。</p> <p>【コンサルタント・景観デザイナーとしての取り組み】</p> <p>・景観デザイン：その地域の地域資源である風景は人々の暮らしと生業が根本にあり、ハードのデザインだけでなく、ヒト・コトづくりにつながる関係のデザインも同時にアドバイスしている。 例)葛飾柴又帝釈天参道周辺：住民主体の景観づくりを2004年からまちなみガイドラインの作成やまちなみ協議会の運営を支援し、2018年文化的景観に選定</p> <p>【空き家活用シェアスペースうなぎのねどことしての取り組み】</p> <p>築100年の空き家をDIYしながら改修しシェアスペースとして蘇生。3年間でイベント400回超、延べ1700人を超える人が出会いました。</p> <p>【ご近所大学うなどこキャンパスとしてのとりくみ】</p> <p>誰もが先生、誰もが生徒！趣味や特技を生かして講座を開く取り組みです。うなどこ講座を実験的に行い力を育みます。ご近所大学のような様々な活動が街中、日本中に展開することを目指しています。2019年、舞鶴本校・生口島瀬戸田CP・世田谷経堂CP・赤羽CP、そしてうなぎのねどこCPの5校があります。長野県辰野CP・鹿児島県徳之島CPが開校準備をしています。</p>
富永 一夫	とみなが かずお	特定非営利活動法人エヌピーオー・フュージョン長池	<p>・八王子市多摩ニュータウン地域で暮らしを支援</p> <p>・八王子市都市公園の指定管理者 ひとまちみどり由木(長池公園+80公園・緑地 合計77ha)</p> <p>・公園経営学校を主宰</p>
長岡 力	ながおか つとむ	株式会社リンクアンドイノベーション	<p>地域と中小企業のイノベーションを目指す経営コンサルタント。 これまでの主な活動実績</p> <p>1. 特定非営利活動法人への支援</p> <p>・特定非営利活動法人グローバル・ヒューマン・イノベーション協会(東京都渋谷区)、特定非営利活動法人グローバル新世代イノベーター育成協会(東京都渋谷区)、特定非営利活動法人 スクール・アドバイス・ネットワーク(東京都杉並区)、特定非営利活動法人 ピアサポートネットしづや(東京都渋谷区)が行う各種活動の支援</p> <p>2. 中小企業経済団体への支援</p> <p>・群馬県商工会連合会、福島県商工会連合会、沼田市東部商工会(群馬県)、片品村商工会(群馬県)、昭和村商工会(群馬県)、群馬伊勢崎商工会(群馬県)、前橋東部商工会(群馬県)、高崎市榊名商工会(群馬県)、長野原町商工会(群馬県)、みえ熊野古道商工会(三重県)、南あわじ市商工会(兵庫県)等が実施する事業支援</p> <p>3. 大学への支援</p> <p>・青山学院大学(東京都渋谷区)、別府溝部学園短期大学(大分県別府市)、大分大学(大分県大分市)が実施する各種事業への企画段階からの参入支援</p> <p>4. 中小企業への支援</p> <p>・ものづくり製造業等への経営戦略構築、経営革新計画、ものづくり補助金、持続化補助金策定支援</p> <p>5. その他</p> <p>小規模事業者持続化補助金事業書面審査委員、6次産業化プランナー、東京商工会議所エキスパート、ミラサポ専門家他</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
中坊 真	なかぼう まこと	NPO法人九州バイオマスフォーラム	NPO法人九州バイオマスフォーラムは、バイオマスの普及啓発事業、地域モデル事業としてバイオマスの利活用事業、コンサルティング・講師派遣・バイオマス製品の普及事業を行っています。特に草本系バイオマスの収集運搬・利活用技術に関して、ノウハウを持っています。 バイオマスの普及啓発事業としては、テレビ熊本と連携してH19年度からバイオマスをテーマにした55分番組を制作・九州一円に放送しています。また、BDFカートやミニBDF精製プラントを使って、小学校でバイオマスをテーマにした環境教育を行っています。 木質バイオマスに関しては、薪・木質ペレットストーブの普及啓発や、薪・木質チップの製造・販売支援、木質バイオマスボイラーの導入簡易診断などを行っています。 2016年4月に発生した熊本地震では、震災により発生した解体材などの木くず処理のコンサルティングを行いました。また、災害支援ボランティアのコーディネートも実施しました。 2016年から資源エネルギー庁の再エネコンシェルジュ事業として、自治体や企業のバイオマス事業に関する無料相談を行っています。詳しくは再エネコンシェルジュ事業で検索してください。
中村 哲雄	なかむら てつお	一般社団法人葛巻町畜産開発公社	平成24年1月22日農林水産省東北農政局主催の農山漁村の地域活性化シンポジウムのパネラー、地域活性化講演実績、北海道東川町、七飯町、宮城県北6町の議会議員、涌谷町、山形県山形市、最上町、東京目黒区めぐろシティーカレッジ。大学関係では、お茶の水女子大学生、岩手大学生8回講義。葛巻町に来町した沖縄県名護市会議員、北中城村議会議員、千葉県印旛郡議会議員、早稲田大学院生、明治大学生、日本大学生、東北学院大学生などに地域活性化について講演。平成25年は山形県最上町、宮城県涌谷町、岩手県岩泉町、奥州市、神奈川県川崎市、東京都稲城市などで地域活性化について講演。平成26年は東京都、金沢星陵大学などで講演、来日したフィリピンの農林省若手職員に地域開発と地域活性化について講演、現地指導など
野村 みゆき	のむら みゆき	越前市エコビレッジ交流センター	環境学習(里山スクール、坂口エコミュージアムウォーク、里やまカフェ)の主催事業企画運営のほか、団体の要望に沿うようにプログラムを組み、里山の自然環境を活かした環境教育のコーディネートやコウノトリの取組みなどの説明や出前講座も行っている。今までにこども環境管理士 1級を始めとする様々な資格を取り、子どもから大人まで幅広い年齢層を相手に、自然のおもしろさや不思議さ、命のつながりに気付くヒントを導いている。平成15年より里地里山の保全再生、特に希少動植物の保全に取り組み、安心安全な環境づくりや、有害鳥獣対策につなげている。 平成16年より、地元の小学校と地元の自治振興会 環境部会との協働事業で、無農薬無化学肥料による「コウノトリが舞い降りる田んぼづくり」を手掛け、田植えから草取り、稲刈り、田んぼは稲を育てるだけではなくたくさんの生きものを育む場所として観察会も行い、収穫したもち米や藁を利用して、しめ縄づくりや餅つき交流会、かきもち作りもしている。 平成28年度より、特産品づくりに取り組んでいる。
芳賀沼 伸	はがぬま しん	株式会社芳賀沼製作 / NPO法人みなみあいづ森林ネットワーク (株)マストロ・ジェベット / NPO法人南会津はりゅう里の会	<株)芳賀沼製作 概要> ・国内でログハウスの先駆者として、ログハウス村「はりゅうウッド村」を37年前より建設し、現在99棟となる。 ・2011年東日本大震災後、福島県木造仮設住宅でログハウスでの仮設住宅の提案者メンバーとなり、600棟を建設する。 ・2015、16年度縦ログ構法が林野庁「林業白書」に掲載される。 <NPO法人みなみあいづ森林ネットワーク 概要> ・地元林業従事21団体(3森林組合含む)と木材(立木)の価格を守り、収入を増やす為、古くて新しい産業づくりを展開(素材での有効活用法)。 ・森林認証材の具体的活用法を提案、実施(A・B材-縦ログ・家具、B・C材-日用品・玩具、C材-アロマ、薪利用) <株)マストロ・ジェベット 概要> ・町内加工業者4社と都市在中デザイナーと組み、海外(ヨーロッパ・中東・アジア)を見据えた木製玩具の販売展開中。 <NPO法人南会津はりゅう里の会 概要> ・地元住民とターナー・二地域居住者(土地を借地方式とした「はりゅうウッド村」の住人)による、山村での豊かな生き方・暮らし方の実践を現在進行中、事務局の役割をにう。アロマ事業を開業し、地元住民が採取した枝葉でオイルを精製し、出口販売先と共同で新しい職づくりを展開。 ・山村大学から継続している野外教育事業を発展し、広大なフィールドを活用した新たな観光産業を展開。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
蜂谷 潤	はちや じゅん	一般社団法人 うみ路 / 合同会社 シーベジタブル	2013年3月、高知県東端に位置する室戸を拠点とした地域の会社“一般社団法人うみ路”を設立。 主に地域内で生産される農産品や水産品を使用した加工品の開発や販売、地域内外の交流イベントや勉強会の企画、カフェの運営など地域に根ざした事業を多岐にわたって展開している。 2016年4月、海藻の陸上用養殖を中心に行う合同会社シーベジタブルを設立。 室戸市の特産品である海洋深層水で海藻の陸上養殖モデルを確立。その後は日本各地で展開できるよう、海水井戸水(地下海水)を活用し海藻やアワビ類の陸上養殖のモデル作りを行ってきた。現在はこのモデルをもとに、福祉作業所や高齢者等、成立させることが難しい事業者とパートナーシップを組んだ日本各地での事業モデル作りを行っている。
花井 恒三	はない こうぞう	奄美のトラさん	①奄美と本土・沖縄の人材マッチング(ヒューマンネットワークウェア) ②本土・沖縄から奄美に住みたい・投資をしたい・貢献したい方、奄美を調査・研究・提言したい方、奄美で自分を極めたい、表現したい方(マドンナ、男性 含む)への奄美の入口案内ボランティア。
平田 裕之	ひらた ひろゆき	一般社団法人コクリエーションデザイン	・グラフィックレコーディング/ファシリテーション ・NPOのマネジメント/人材育成支援 ・社会貢献プログラムの事務局支援 ・コミュニティデザイン支援
平野 彰秀	ひらの あきひで	特定非営利活動法人 地域再生機構	2008年より、自然エネルギー導入(小水力発電・木質バイオマス)を核とした地域づくりに取り組む。2011年より、100世帯250人の集落、岐阜県郡上市白鳥町石徹白(いとしろ)在住。 2014年春、石徹白農業用水農業協同組合を設立し、集落100世帯のほぼ全戸出資による小水力発電事業を立ち上げた。石徹白集落では、過去10年間のUIターン者が人口の約2割となり、子供の数も増加に転じている。 2016年、郡上八幡の旧紡績工場をリノベーションしたコワーキングスペース「HUB GUJO」を開設し、都市部企業のサテライトオフィスを誘致。進出した企業の技術を活用し、教育分野において、遠隔教育システムの導入・プログラミング教育の実践などに取り組んでいる。 2017年より、郡上カンパニーディレクターとして、関係人口構築と起業支援に取り組んでいる。 岐阜県郡上市をベースにした活動が中心であるが、他地域に対して支援可能な活動領域としては、以下の通り。 ・農山村における地域づくりと自治再生の支援 ・地域住民主導による小水力発電の導入・木質バイオマスボイラー導入の支援
平野 龍平	ひらの りゅうへい	富士急行株式会社/一般財団法人コレゾ財団	数々の地域活性化や観光振興のお手伝いをさせて頂いている内に、言うだけで何もしない人が多いこの世の中で、自ら考え、行動を起こし、真っ当で当たり前なことをごく当たり前に続けている人たちこそ、貴重で、尊い存在であり、行動し続ける先にしか、結果は生まれず、成果は後からついてくるものだ、ということに気が付きました。 いろんな地域のさまざまな事例を拝見してきて、成功事例や素晴らしい取り組み、活動に唯一、共通しているのが、魅力的な担い手の皆さんの存在です。 「COREZO(コレゾ)賞」表彰事業は、そんな方々が一堂に会して、ウマイ食を食べ、ウマイお酒を酌み交わしたら、きっとおもしろいことが起こるだろうと思って始めました。 「COREZO(コレゾ)賞」は、「権威なし」、「名誉なし」、「賞金なし」の三拍子揃った「三なし賞」の上、毎年、表彰式は、受賞者のおられる地方で自主開催して頂き、旅費、宿泊費は、自腹、飲食も参加者の持ち寄りなのに、既に4回実施し、延べ300名近い表彰者と関係者、賛同者の交流の場にもなっています。 案の定、日常、交流することもない、分野も業種も職種も違う多士済々な皆さんが一堂に会することで、思いもよらない化学反応が起こり、主催者も知らないところで、いろんなコラボや協働等、おもしろいことが次々に始まっています。 自分のような若輩者が「地域活性化伝道師」に認定され、何かアドバイスするなんておこがしく、先達の皆さんに対し、失礼に過ぎると自覚していますが、「COREZO(コレゾ)賞」他を通じて、数多くの皆さんとのご縁と人的ネットワークだけは、有しており、「人」と「人」のご縁をつなぐ役割は果たせるのではないかと考えています。

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
平原 秀則	ひらはら ひでのり	平原建設株式会社	<p>例えば沖縄の慰霊地に奉納された千羽鶴。実はその最終処分方法は自治体の大きな悩みです。そこで、千羽鶴を再生紙として甦らせ、ノートや名刺の台紙などに製品化して慰霊地の記念品として販売。これを発展途上国の子どもたちの教育に役立てています。</p> <p>また、千羽鶴の解体、仕分け作業を障害福祉施設の利用者にお願いし、工賃の向上を担っております。さらには、沖縄や広島への修学旅行の平和学習プログラムとして、千羽鶴の解体・仕分け作業のボランティア活動を組み入れるなど、人と人をつなぎ、地域とつながる方法を考えて来ました。また被災地支援では、北海道等で産業廃棄物に過ぎないホタテの貝殻を、牡蠣養殖の採苗用に被災地の被災障害者施設で加工し、広島等の養殖地に販売する取り組みを進めており、被災地の障害者の就労支援を通じて、人と人とのつながり、人と地域とのつながりを再生することを目指しています。</p> <p>直近の事例としては、平成24年8月、北海道の北広島市で、障害者支援施設を経営する地元社会福祉法人の地域貢献をコンセプトに、北海道と広島の酒造協会の協力の下、銘酒の試飲会のイベント「北の酒祭り」を開催し、地域住民の絆づくり、地域活性化のお手伝いをさせていただきました。</p>
藤井 絢子	ふじい あやこ	NPO法人菜の花プロジェクトネットワーク	<p>琵琶湖の水環境再生をスタートに、地球温暖化対応のBDF開発・普及、耕作放棄地などへの菜種栽培展開。</p> <p>地域課題に向き合う自律の市民の育成と、持続可能な食・エネルギーの地域自立モデル「菜の花プロジェクト」を展開</p> <p>全国各地に活動が広がり2001年より、毎年全国菜の花サミットを開催。</p> <p>3. 11後は、福島県南相馬市、須賀川市を重点に毎年菜種の種まきに参加している。震災・原発被害の重荷をかかえる地域の方々との連携を密に、展開しているところである。</p>
藤村 望洋	ふじむら ぼうよう	早稲田エコステーション研究所(ぼうさい朝市ネットワーク)	<p>災害を想定しながらも「美味しく楽しい」地域活性化活動「ぼうさい朝市」の仕掛け人。かつての北前船ルートでつながる港町をネットワークして、日頃から防災をテーマに活動し、いざというときの救援物資に見立てた特産品(美味しい救援物資)を全国各地から運び込み、地域住民が訓練を兼ねて設営したテントで販売する産直市「ぼうさい朝市」を開催。この仕組みを活用して、山形県庄内地方の特産物の大阪への流通コースを構築する「特産物のフルコースディナー」を開催(H23年度山形県鶴岡市と酒田市と大阪を結ぶ地域活性化伝道師活動)。</p> <p>「ぼうさい朝市ネットワーク」では、いざという時は混乱する被災地ではなく、安全な「隣」が拠点となって支援する仕組みを提唱。壊滅的な被害を受けた南三陸町「おさかな通り商店街」もネットワークに参加しており、その経過から、山形県酒田が「災害時の隣」となり、全国各地から酒田を中継基地として南三陸町へ救援を行い、第2段階で「福興市」を立ち上げ、第3段階で地方都市と南三陸を結ぶ地域連携による商店街再生のビジネスモデル構築を支援している。「福興市」はH23年度「地域づくり大賞」を受賞。H24年3月、全国からの被災地支援団体・企業と被災地の地元団体をつなぐコーディネート組織「一般社団法人南三陸福興まちづくり機構」を設立。漁業及び林業の6次産業化を全国連携で取り組んでいる。</p> <p>瀬戸内海は、エーゲ海やカリブ海に勝るとも劣らない歴史と風景と地域資源をもつ海洋観光の最適エリアである。しかしエーゲ海等で今や巨大な観光産業となっている小型船による島めぐりクルージングはほとんど行われていない。国際的な海洋観光産業を瀬戸内海に事業構築するために、瀬戸内海の島々のNPOや地元自治体や各種の専門家と連携して一般社団法人日本海洋観光推進機構を設立。</p>
藤原 一夫	ふじわら いつお	藤原コンサルティング	<p>中小建設業の経営革新、再生、新分野進出等、建設業関連専門の経営コンサルタントとして経営指導等を業務とする傍ら、中小企業診断協会東京支部の建設業経営研究会の代表幹事として、建設業経営の情報交換・勉強会を主催しております。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
星野 智子	ほしの ともこ	一般社団法人 環境パートナーシップ会議	<p>環境省と国連大学の共同事業である「地球環境パートナーシッププラザ」の運営業務に関わり、環境教育、持続可能な地域づくり、生物多様性保全、NPO活動支援、ボランティア活動の普及、地球規模課題の普及啓発など、環境政策コミュニケーターとして、多様な主体との対話づくり、パートナーシップ構築を日々行っている。</p> <p>地域における青年・女性の役割に重視しており、活動サポートに注力してきた。1994年に青年環境団体で開発したイベントごみリサイクルのためのボランティアコーディネートは今では全国で見られるようになった。現在では東京2020大会に向け、ボランティアにサステナビリティの視点を普及啓発している。</p> <p>安全な食の普及とエコツーリズムに関心があり、毎年田んぼに通い、生産者と消費者の交流の場を作っている。また仕事とプライベートで多くの農山漁村・島を訪れ、ヨソ者視点で地元住民との交流、地元産品の研究を各地で行っている。</p> <p>H11年6月地球環境行動会議主催 UNDESA共催「グローバル・コモンズ世界環境会議'99」企画・運営 H11年10月地球環境行動会議主催 UNFCCC/COP5(ボン)でのサイドイベント 企画・運営 H12年環境省 国際シンポジウム「水俣病の経験普及セミナー」(ベトナム) 企画・運営 H13年環境省 国際シンポジウム「水俣病の経験普及セミナー」(タイ) 企画・運営 H14年8月ヨハネスブルグサミット NGOフォーラム 現地ブース出展・ワークショップ企画・運営 H15年地球環境行動会議主催 「エコユース会議」 企画・運営 H16 ドイツ日本学会(発表)日本の環境NGOについて(ミュンヘン) H19・UNUグローバルセミナー 講義(沖縄・神奈川)(英語) H20・G8洞爺湖サミット NGOフォーラム G8市民サミット 企画・運営 H21・大阪経済法科大学 講義(大阪)(英語) H22・CBD-COP10 UNU主催サイドイベント 里山知事サミット 企画・運営 H23・水銀条約政府間会合(INC2) 環境省主催サイドイベント 司会(英語) H25国連大学グローバル・セミナー 2013湘南セッション H26・ESDユネスコ会議併催イベント UNU共催(11/12) 企画・運営・登壇</p>
本田 勝之助	ほんだ かつのすけ	本田屋本店 有限会社	<ol style="list-style-type: none"> 1. 農業と食から実績を積んだ地域プロデュースの総合専門会社を経営。 2. 代表商品は「本田屋継承米(氏郷)」。肥料開発及び、生産管理、販売まで一貫して行っている。納入先には銀座久兵衛や金田中などの名店、京都伊右衛門サロンなどカフェレストラン等で使われている。 3. 全国各市町村への戦略的アドバイス、ブランドや商品開発、産業活性化への各種取り組みなどの要望に応え、地域との官民連携で戦略的にプロデュースしている。 4. 伝統工芸品のリブランド、商品開発。(Futradition WAOとの協業) 5. クリエイティブ:PR制作物(コピー、ポスター、リーフレット、映像、各種) 6. 観光やまちづくり、スマートシティ等のモデルづくり。 7. 日本遺産認定の全地域に対しての統括プロデューサー業務
町田 直子	まちだ なおこ	特定非営利活動法人 ACTY/株式会社ACプロモート	<p>NPO法人と株式会社にて地域ブランディング戦略による地域プロデュースをすすめています。NPOでは、環境省が設置した種差海岸インフォメーションセンターの運営管理、「みちのく潮風トレイル」の運営管理を担いながら、青森県ならではの地域資源を最大限にいかしながらブランディング化をすすめる、地域経済の活性化をすすめています。地元住民とのネットワークを構築し、地域が主体となり参画できるシステムを作っています。株式会社では、観光開発に力をいれ着地型体験の旅行商品を造成し、漁業者、農業者、または三セク鉄道との連携によるプログラムを多数開発・販売しています。中心街にカフェを設置し、情報発信の拠点として、また観光客の拠点として運営をしています。カフェ事業部、お土産品の販売、ツアーの商品化により、開発から商品化を一貫して行います。地域ブランド戦略による事業展開を進めています。</p>
松井 郁夫	まつい いくお	株式会社 松井郁夫建築設計事務所	<p>古民家の知恵に学び、日本の気候風土に合った木組の家づくりを実践。「むかしといまをみらいにつなぐ」住まいづくりを通して美しい日本の風景と地域コミュニティの再生がテーマ。</p> <p>良質の木の家に住みたくても手が出ないと思っている建主、伝統の技を活かす場所がないと嘆く職人、植林の費用が必要な山のために、協働することでそれぞれの夢をかなえる、共存共栄の仕組み“ワークショップ”“き組”を立ち上げる。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
松井 利夫	まつい としお	株式会社 アルプス技研	<p>○「認定 特定非営利活動法人(NPO)地域産業おこしに燃える人の会」会長 ○第三セクター「株式会社さがみはら産業創造センター」初代社長(現在退任) ○岩手県北上市「北上しらゆり大使」、および「工業振興アドバイザー」(現在退任) ○北海道土幌町「まちづくりアドバイザー」 ○国内外の大学7校に、起業を目指す学生を対象とした松井奨学金制度を設置。 ○約20社のベンチャーを応援、エンゼル投資をする。 ○公益財団法人起業家支援財団、認定NPO法人ふれあい自然塾を、個人資産を投入し設立。社会貢献活動に注力。 ○公益財団法人とかち財団 理事 ○特定非営利活動法人(NPO)メコン総合研究所 副理事長 ○北海道土幌町 かみしほろ起業塾 塾長</p>
松島 信雄	まつしま のぶお	(公益財団法人)南信州・飯田産業センター	<p>地域の中小企業の体質改革と新産業クラスター形成に取り組んでいる。事業は4つの柱を基本にしている。 ①ネットワーク形成と地域連携事業: 広域連携としては新潟等との協力活動を展開している。飯田地域においては企業間の交流を通して相互の信頼を高め、協力風土の醸成を図っている。また産学公の連携で地域のポテンシャルアップに繋げている。 ②新産業クラスターの育成: 航空宇宙クラスターの形成を重点プロジェクトとして位置づけている。 4つのワーキングチーム活動を通してQMSの体制確立や技術の向上を図りながら地域一貫生産、共同受注を目指し、実績を上げている。 ③販路開拓支援: マーケティング機能を持たない中小企業にとって販路開拓は大きな課題である。海外も含めた展示会出展や顧客開拓支援に力を注いでいる。海外市場開拓支援としてParis,Farnborough,Belrin,Singapore, HK,Toulouse,NBAA等のAirshowに出展参加してきた。 ④人材育成: 技術・技能のレベルアップと後継者育成を目指して、働きながら学ぶ風土を醸成しようと産業技術大学を立ち上げ人材育成に注力している。年間150社を超える企業から延べ1000~2000人近い企業人が学んでいる。2014年には地域企業人材共同育成事業の経産省委託を受け、地域共同人材育成プロジェクトマネージャーも務めた。航空宇宙のQAと生産技術コンサルティング、非破壊検査員の育成に取り組んでいる。</p>
松場 登美	まつば とみ	(株)石見銀山生活文化研究所 ／(株)他郷阿部家	<p>石見銀山生活文化研究所では衣・食・住のデザインに取り組み、衣においては国内の素材と加工にこだわった商品の企画製造販売、食においては再生した民家を活用した飲食店の経営、石見銀山で発見した梅花酵母菌を生かした商品開発、住においては鳥根県大田市大森町で約20年にわたり民家再生を行っている。大田市大森町以外に、東京・西荻窪の昭和初期の民家を再生し活用している。</p>
松原 裕樹	まつばら ひろき	特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター	<p>1982年広島生まれ。NPOや企業、渡米経験を経て、環境、教育、地域づくり、観光、防災などに関する事業の企画、運営、コーディネートを行っている。2017年からひろしまNPOセンター事務局長に就任。ゆたかな市民社会の実現に向けて、NPOやボランティア活動の支援、地域課題の解決やSDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けた多様な主体との協働に取り組む。平成30年7月豪雨災害では広島市災害ボランティア本部の副本部長を務めた。環境省中国環境パートナーシップオフィス(EPOちゅうごく)・中国地方ESD活動支援センター 事務局長。</p>
御園 慎一郎	みその しんいちろう	大阪大学／地域活性学会	<p>・自治省入省後、地方税財政制度の企画立案に参画。また、福井県、愛知県、茨城県において県政運営に関わるとともに県下市町村の行財政運営にも関与する。制度立案過程の構造と組織運営の提言を学ぶ ・サッカープレーヤーであったことなどによる日本サッカー界との縁で2002FIFAワールドカップ組織委員会に勤務。アジアで初めて、初めての共同開催というワールドカップの成功に寄与。スポーツの持つ一体感や形成力を実感するとともにサポーターとの距離感の取り方の重要性や国際的事業における交渉力の大切さを痛感。 ・内閣官房地域再生本部において地域社会の活力を構築するための国家組織をあげてのシステムを構築。その一環として地域再生法を制定。全国に地域再生の輪を広げる。 ・地域再生のため大学との連携システムを考案。「地域再生システム論」として30を上回る大学における地域活性化講座開設に寄与。自らも複数の大学で教鞭もとる。 ・地域活性化をともに語りともに進めるための集団としての「地域活性学会」の設立を発案。発足にも貢献。現在副会長として学会活動の進展、とりわけ学会スポーツ振興部会長として2020東京オリンピックパラリンピックのホストタウン運動を契機とした地域づくりの支援活動を積極的に展開中。 ・厚生労働省において介護保険や生活保護などを担当。介護予防を地域で支える事業の一環としてJリーグのチームによる地域の健康作り活動の展開を提唱し実現に。その延長線上の活動として医療介護のサービスの質の向上や究極の地域づくりである「地域包括ケアシステムの構築」に際して欠かすことのできないヘルスデータをクラウド上で管理することを目的とするNPO法人の活動を展開中。</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
宮城 治男	みやぎ はるお	特定非営利活動法人ETIC.(エティック)	自らの意志と行動で社会の課題を解決し新しい価値を生み出す「起業家型リーダー」の育成及び輩出並びに「起業家型リーダー」を育む社会基盤の創造及び整備を行うことを通じて社会全体の変革を創造し、もって社会全体の利益の増進に寄与することを目的とする。 取組概要 (1)起業家型リーダー育成事業 (2)起業家型リーダーを育む社会基盤創造整備事業 (3)職業紹介及び労働者派遣事業 (4)その他この法人の目的を達成するために必要な事業
向井 哲朗	むかい てつろう	こどもエコクラブ彦名地区チビッ子環境パトロール隊・NPO法人エコパートナーとっとり	「子供も大人も身近な環境問題を五感で感じる事が課題解決へ繋がる近道」との発想から、1990年にこどもを中心とした「彦名地区チビッ子環境パトロール隊」を結成。テーマは、身近な大問題である「中海の水質浄化」。家庭から出る生活排水と中海の水質汚濁の勉強が始まり、水質汚濁の大きな原因となる廃天ぷら油の回収がスタートした。この活動は、現在、障がい者施設の皆さんとBDF製造にまで発展している。全国で初めての試みでもあった使用済み割り箸を回収し製紙工場と協働して紙再生への取組みについて問題提起。鳥取県米子市で地元のホテル温泉街に協力を呼び掛けて始まった本取組みは、今では地域全体での取組から、更には全国区の事業にすることができた。身近な環境を体で知り、そこに存在する問題をきちんと理解し、自ら活動することを覚えれば、地球温暖化防止への道は近い。25年以上に渡って継続している割り箸・廃天ぷら油の回収・再資源化活動は、地球を愛することができる豊かな心を持った人間を育てている。廃油ローソク作り・牛乳パックから手づくり葉書づくり・環境パトロール・廃バンスト等を利活用した生活排水浄化方法・メダカ/ホテル観覧会・水鳥観覧会等体験型学習の指導、グラウンドワーク活動・環境を基軸にした協働の街づくりの継続実践をしている。
森賀 盾雄	もりが たてお	人間環境大学	36年間「はみ出し公務員」といわれ、新居浜市職員として前例のないことを主に取組んできた。市職員退職一年前に愛媛大学に引っ張られて専任准教授になり、一年後に経済学博士学位を取得し、さらにもう一年後に教授になった。担当科目は「起業論」「マーケティング論」「地域マネジメント論」など。愛媛大学では愛媛大学紙産業修士コース創設に中心的役割を担い2010年に開設(現・バイオマス資源学コースとして全国の紙産業の研究・教育の拠点化を進めている)。2015年に六年間の専任教員を退職し、非常勤講師をしながら地域人材づくりに奔走。愛媛大学社会人講座修了生(愛媛県内をはじめ近県165名)を中心とした「地域再生塾」塾長、高知県須崎市「須崎未来塾」塾長などで、人と地域に内在して地域づくりに取り組んでいる。産業遺産活用では我が国草創の頃から30年以上取り組み、新居浜市の新しい顔に定着させた。市職員・大学教員・地域人材塾で蓄積した地域現場に適合した知的地域づくりを進めている。得意とするのはイノベーション論・マネジメント論・マーケティング論の様々な分野に横断的に適用した分析・実践である。
森本 明夫	もりもと あきお	COテクノロジー株式会社	-
矢口 正武	やぐち まさたけ	NPO法人 元気・まちネット	多くの地方は少子高齢化によって過疎化が進んでいます。 元気・まちネットは、そうした過疎に悩む地方から、相談を頂ければ出かけて行き、地元の皆さんと膝を交えてお話をし、その土地にまつわる歴史・文化を掘り起こし、その土地ならではの活性化に寄与出来ればと考えています。 また、スポーツイベントの開催にしても協会や連盟などに登録しなくても可能なローカルルールを考案・構築して、地元の方々も一緒に参加出来る、楽しめる企画を考案出来ます。
谷中 修吾	やなか しゅうご	地方創生イノベータープラットフォーム INSPIRE/BBT大学 経営学部グローバル経営学科	◆価値創造型の超絶まちづくり～突き抜けたアイデアを事業化する～ 国内最大級の地方創生イノベータープラットフォーム「INSPIRE(インスパイア)」を立ち上げ、日本全国の地方創生まちづくりで活躍するイノベーターを束ね、彼らの実践しているノウハウを体系化した「超絶まちづくりの集合知」を社会にシェアする取組を推進している。1万人の地方創生イノベーターコミュニティを形成し、中央省庁、地方自治体、グローバルカンパニーとのタイアップ事業を展開。突き抜けたアイデアから事業を生み出す価値創造型のビジネスデザイン技法を伝授するとともに、地域における「イノベーターの発掘・育成・活用」を支援している。アイデアソンやアクセラレータなどの事業プロデュースに関する専門的知見を活かし、日本全国で地域におけるイノベータープラットフォームを構築した支援実績多数。また、ビジネススクール(MBA)教授として教鞭を執り、理論と実践に基づいて、地域に対して再現性のある実務ノウハウの伝授に努めている。 【主たる支援内容】①価値創造型のビジネスデザイン技法の伝授(講話、ワークショップ)、②イノベーターの発掘・育成・活用を通じた地域イノベータープラットフォームの構築支援(カンファレンス、アイデアソン、アクセラレータ)、③地方創生事業の総合プロデュース(プロデューサー、アドバイザー)

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
矢野 富夫	やの とみお	高知県梶原町	町長時代に、町民の不安に思うことや町内外の意見等を調査分析し、絆と自立をキーワードに、小さな拠点ゆずはらづくりを掲げ、「自分たちでできることは自分たちです」を合言葉に、地域の課題を解決する小さな拠点・地域運営組織(梶原町では集落活動センターという。)を町内全域に6ヶ所設立するとともに、ゆずはら未来大使を任命している国立競技場を設計した世界的建築家隈研吾氏とともにまちづくりに取り組み、町内にある隈研吾氏が設計した6つの建築物を生かしながら、町民みんなと心一つに、生きる仕組みをつくり、人口減少に歯止めがかかりはじめるなど、まちづくりのモデルとなっている。 そうした経験から、全国各地の大学、各種団体、市町村や市町村議会等に出向いての講演や内閣府の小さな拠点・地域運営組織の形成推進に関する有識者懇談会委員及び学校法人平成学園アドバイザー等の活動を行う。
矢原 正治	やはら しょうじ	山陽小野田市立 山口東京理科大学 薬学部	1) 山陽小野田市の江汐公園内の薬用植物園を管理しています 2) 現在、山口東京理科大学の校内に薬用植物園を作っています 3) 薬用植物を知らうin熊本を毎年一回開催しています(2019年は第19回) 4) 八幡薬剤師会の皿倉山での薬用植物観察会の講師を担当しています
山田 桂一郎	やまだ けいいちろう	JTIC.SWISS	これまで北海道から沖縄県の離島まで全国各地のあらゆる地域振興や活性化に関わってきました。特に、住民主体の地域経営組織の立ち上げと運営や民間事業として様々なビジネス化による収益事業で成果をあげています。基本は全て「自立」と「持続」です。また、政策、施策、事業化には地域経営の視点を重視しています。どれだけ良い計画やデザインであったとしても人間社会の「エゴ」と「利害」により全てが崩壊します。多くの地域で、行政の単年度やりっぱなし事業で地域が疲弊疲労している現実があります。地域 住民も何をやって良いのか全くわからない場合もあります。それ以上に目の前の生活に困っていない人もいます。この様な状況から脱出するためには、地域の問題、課題を自分事として住民が認識することが重要であり、住民が根本的な解決と共に自らの未来を切り開く活動に取り組む必要があります。学問や机上の空論の世界ではなく、日々現場で地域の生き残りを皆さんと一緒に真剣に考え、実践しています
吉田 敦也	よしだ あつや	合同会社テクサラダ	専門は人間中心主義の情報デザイン。コミュニティ基盤型学習プログラム開発、対話の場づくりとプロセスファシリテーション、未来設計など。長年にわたり地域創生の実践、リーダー育成、場づくりに取り組んでいます。2015年9月、3年間にわたる北欧調査を経て、国立大学初の徳島大学フューチャーセンターABAを設計/開設し、第29回日経ニューオフィス賞四国ニューオフィス推進賞を受賞。また、大学キャンパスを活用した徳大ファーマーズマーケットの開発/実践、徳島の豊かな自然を活用したハンズオンプログラム「上勝自然学校もりのべ」の開校にも成功し、感じる力をもった次世代育成、持続し変化に強いコミュニティ形成のための研究/開発/実践に実りをつくっています。2018年からは徳島県小松島市と共同した「こまつしまリビングラボ」(JST未来共創事業)のプロジェクトリーダーに就任。一次産業/産業創発を基盤にした地方創生イノベーションを推進しています。このプログラムの中では、米国オレゴン州ポートランドやオランダと連携した日本初の「社会共創キャンプ」を実施しました。2019年、これらの経験を基礎に、未来デザインと社会イノベーションのコンサルティングファーム「合同会社テクサラダ」を設立、CEOに就任。東京大手町エコッツエリア協会3x3 Lab Futureを拠点にしたインパクトデザイン研究会を主宰し、「古民家を活用した酒蔵ホテルづくり」プロジェクト等を実践しています。徳島大学では授業「SDGsと地域イノベーション」(総合科学部、非常勤)を担当しています。
吉田 総一郎	よしだ そういちろう	(株)吉田藤兵衛・アンド・カンパニー	再生可能燃料の合成と実践的な地域的活用

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
吉富 慎作	よしとみ しんさく	特定非営利活動法人 土佐山アカデミー	<p>■特定非営利活動法人土佐山アカデミーの取組み</p> <p>土佐山アカデミーは「次の100年のために、新たな出会いやアイデアを生み出す学びの場づくり」というミッションを掲げ、5つの事業ドメインを展開し、年間を通して開催している短期・長期ワークショップや研修には事業開始から延べ9,800人以上が受講しています。</p> <p>【TOSAYAMA ACADEMY(循環型の生活を地域の方から学ぶワークショップ群)】は、日帰りから3ヶ月滞在型プログラムまで、地域の課題を資源と捉え、それに基づいた年間12本以上のワークショップを展開。</p> <p>【土佐山ワークステイ(中長期滞在支援サービス)】 都会の方に「家を貸し、車を貸し、コネを提供する」土佐山に滞在し、土佐山のための仕事をする方へのプログラム。</p> <p>【EDGE CAMP(中山間地域特化型起業家養成プログラム)】 「雇用がないだけで、仕事はある」。地域での仕事の作り方を6ヶ月間かけて仲間と共に学んでいくものであり、日本財団より補助を得て実施している。</p> <p>【TOSAYAMA Creative Camp(企業・団体研修)】 平成27年から実施。地域の課題を研修教材へと編集し、地域おこし協力隊の研修のみならず、高知県庁、大手企業本社等からの人材育成研修を行っている。</p> <p>【コンサルティング サービス】 企業の事業企画、他地域の地域づくり、交流人口増加のためのコンサルティングや行政の委託事業受注等。</p> <p>■受賞歴 2014年環境省グッドライフアワード 環境と学び特別賞 2016年農林水産省 オーライニッポン大賞受賞</p>
吉弘 拓生	よしひろ たくお	一般財団法人地域活性化センター	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域資源を活かした交流連携のまちづくり ・森林セラピー導入に係る助言、現地指導、人材育成等の伴走支援 ・「森林サービス産業」に係る現地指導 ・地域循環共生圏導入にあつての事前研修 ◆地方公務員を対象にした研修・講演 ・都道府県、市町村階層別研修講師(幹部職員研修、中堅職員・新規採用職員研修) ◆金融機関等と連携した取り組み ・奨学金創設に関するアドバイス ・官民連携での地方創生の取り組みに係るアドバイザー ◆働き方改革・ワーケーション ・民間企業と連携したワーケーション誘致アドバイザー ・自治体の企業誘致に係るアドバイザー、マッチング支援
若林 宗男	わかばやし むねお	若林ビジネスサポート／事業構想大学院大学	<ul style="list-style-type: none"> ・豊富なメディア経験とコミュニケーション能力を活かして、企画、広報、イベント開催で強みを発揮、プレスリリースの記事化率は9割を超える。 ・島根県三郷町の「みさと暮らし5.0研究会」の委員、「みさと暮らし編集ラボ」講師。 ・福岡県八女市の八女商工会議所の観光振興事業のアドバイザー。滞在型観光の重要性を説き、2020年4月に築100年以上の古民家ホテルNIPPONIA HOTEL八女福岡商家町の開業につなげた。 ・九州の観光振興には九州としての広報活動が不可欠と考え、九州広報センターを提案。九州観光推進機構の石原会長が賛成し、2016年6月に同機構内に九州観光広報センターが設立され、副センター長兼海外担当に就任。 ・熊本地震後の海外風評被害対策事業One Kyushu Project(経産省事業)を支えた。 ・経産省九州経済産業局知的財産室主催の九州ブランド総選挙(2017年)や九州地域ブランドコンペティション(2018年)で審査委員長。地域団体商標の活用状況・課題の調査・分析及び支援モデルの実証事業検討会(2019年)で委員長。 ・福岡県の農山村と都市の絆づくり事業では、2013年～うきは市、2014年～八女市星野村のアドバイザー。
渡邊 法子	わたなべ のりこ	アイ・エス・ケー合同会社	<p>地域特性を活かしたまちづくり(地域資源の再発掘・活用)</p> <p>地域の人材発掘、育成地域の主体性を核にした自立型、持続型のまちづくり事業</p> <p>着地型観光事業(基盤の整備構築)</p> <p>ローカルエリアプロモーションビジネスの事業化</p> <p>インバウンド(訪日)観光事業</p>

氏名	ふりがな	所属名称	取組概要
渡邊 賢一	わたなべ けんいち	株式会社 XPJP / 一般社団法人 元気ジャパン	<ul style="list-style-type: none"> ・内閣府/石垣市 インバウンド事業「アイランダーサミット石垣」総合プロデューサー ・文部科学省 スポーツ庁 武道ツーリズム映像発信事業 総合プロデューサー ・愛媛県 愛媛県デジタルマーケティング事業「Experience Ehime, Japan」総合プロデューサー ・福島県 ダイヤモンドルート情報発信事業 総合プロデューサー ・栃木県 訪日ブランディング事業「The Grace of Japan, TOCHIGI」総合プロデューサー ・九州観光推進機構 公式ブランディング事業 総合プロデューサー ・北海道観光推進機構 デジタルマーケティング事業 総合プロデューサー ・関西観光本部 インバウンド情報発信事業 総合プロデューサー ・東武鉄道 地域情報発信「TOBU Creators Experience」、「TOBU NOASOBI Experience」総合プロデューサー ・伊勢神宮 公式映像 総合プロデューサー